

開会のあいさつ

上越市長 宮越 馨



20世紀も最後の年になり、21世紀を目前にして世の中がいろいろな面で大きく変わろうとしています。まさに革命的な動きがいろいろな分野で始まっています。中でも、最近、政府も大変力を入れていますがITです。もはやIT革命ということが日常の言葉となっているといっても過言ではないほどですが、実はその一方で、その中身、すなわち、IT革命とは何かという実像がなかなか見えにくい部分があります。いったいITで、あるいはIT革命で何が変わるのかということが、専門の方々にとってみれば当たり前のことも知れませんが、一般の市民の方々にとってみればまだまだ実感が得られていないのではないかと感じております。

そこで、今年4月からスタートしました上越市創造行政研究所主催で市民セミナーをこの時期に行うのも良いかと考え、皆様にご案内を差し上げたところであります。IT革命、ITについての程度関心が持たれているかが、今日のご参加の数で分かるのではないかと、実は私も楽しみにしておりました。このホールは千五百人入ります。千人を超えたら上越市の皆さんもかなりこの問題については高い関心を持っていることになると考えていましたが、概ね千人くらいでしょうか。イ

ンターネットの普及率をチェックしましたところ、いま日本全体で28%、上越市はこれに対して25%でありますから、その数字にちょうど見合ったところかと感じております。

インターネットは毎年普及率が高まってきています。一般に普及率が2割を超えると普遍性があると言われるそうであります。インターネットは2割を超えていますから、もう一般化していると言ってよろしいかと思えます。

したがって、私ども行政もこのIT革命にどう対応していくかというところにさしかかっているのではないかと考え、既に庁内に「ネット行政研究会」を立ち上げております。インターネットばかりでなく、ネット社会に対してどう行政が対応するかを検討しております。

また、私どもはいわゆる「安・近・短」行政を行い、コスト意識、あるいは企業マネジメントの考え方、そういうものを自治体運営に取り入れようということで自治体経営を標榜して取り組んでおります。先般、日本経済新聞の調査で行政改革度の調査があり、全国671の市および東京23区、計694の自治体の通信簿が発表されましたが、私どもは名誉ある総合第1位という輝かしい評価をいただきました。職員はじめ市民の方々のご理解の下で、このような改革ができましたことは大変喜びに値すると思っておりますし、私どもがインターネット、IT革命社会に向かう基盤が既に確立しているのではないかと認識している次第であります。

私どもの市が生み出した偉大な人物に、前島密翁がおられます。この方はいろいろな分野でわが国の発展に貢献され、なかでも「郵便の父」と呼ばれているように、通信という事業についていち早く全国また世界に発信されました。当市はその出身地でありますから、私たちの意識の中に、通信業務、通信行政、そういうことをわりと受け入れやすい素地があるのではないかと感じております。そうした土地柄でありますから、電子政府あるいは電子行政がどうあるべきかというところを行政が率先して取り組んでいかなければならない

と思っております。

また、私どもの生活、暮らしがこのIT革命でどう変わるかということ、早めに皆さん方と共に学び合うということも大変大事ではないかと考え、今日は「ITで変わる私たちの暮らし」というテーマでセミナーを開催させていただくことにいたしました。

IT関係については専門家の方がたくさんいらっしゃるわけですが、今日は特別に素晴らしい講師の方をお迎えすることができました。

現在、政府によってIT戦略会議が主催されておりますが、そのメンバーでいらっしゃいます石井威望先生をお迎えできました。ただいまIT戦略会議のメンバーをなさっている方でありますから、ホットな話をお聞きできるのではないかと大きな期待を寄せており、お越しをご歓迎し、宜しく願います次第であります。

また先に申し上げましたように、行政においても電子行政ということが言われておりますから、市役所の行政サービスがどういう形に変わるべきかも学ぶ必要があるということで、実務的な面で携わっていらっしゃる日立製作所の大川義人さんにも、大変お忙しいところをお越しいただきました。電子行政のイメージがどういうふうなものか、おそらく大川さんのお話でかなり分かってくるのではないかと期待申し上げております。

現在、創造行政研究所には、市の職員から派遣している者も研究員として所属しております。第3部ではその池田主任研究員が、「ITと私たちの暮らし」と題し、研究成果を発表させていただ

くことになっております。これらの3部構成で本日はセミナーを進めていきたいと思っております。

IT革命で私たちの暮らしがどう変わるかということは、正直、私にもなかなか読み取れないところがありますが、少なくとも便利をもたらしてくれるという感じはいたします。そして行政サービスも質が高まって、より一層スピーディになっていくのではないかと思います。また、少子高齢化時代を迎える中で、子供たちがIT社会にどう取り組んでいくかということと考えますと、こうした面に対しても研究し対応していく行政責任があると認識いたします。こういったわけで、いま21世紀を迎える中で、ITというものを私どもの行政あるいは暮らしの中にいち早くきちっとした形で位置づけるにはどうしたらいいのかを探求していけたらと思ってこのセミナーの開催を考えた次第であります。

本日は、いろいろな方々にご参加いただいております。ITに関連する事業者の方がたもいらっしゃる筈で、ITで活力ある地域づくりが可能にならないかと念願しているところです。いろいろな仕掛けづくりが始まっております。まちの活性化のためにTMO（まちづくり公社）も立ち上がりました。IT革命にはいろいろな切り口があるだろうと思います。「安・近・短」行政という行政運営の基本的スタンスの中で、実用的で効果的なものを得、かつ探求していけたらと思っております。今日はそんな意味で学び合う場にしていきたいと思っておりますので、少し長時間のセミナーになりますけれども、最後までしっかりと勉強させていただくことを切にお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。